

本年度の学校評価

本年度の重点目標		・各部、各校務分掌が学校運営の中心となり、児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育を行う。		
項目(担当)		重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	・基本的な生活習慣の育成	・指導目標、指導内容、指導形態の検討	・学習指導要領改訂の趣旨や内容を共通理解し、授業や行事を構築する。	・小学部の目標を確認するとともに、指導の目標、内容、方法、形態等について検討する。
	・安全管理	・けがや感染症等の予防	・予防の観点から、環境整備や点検、手洗い、うがい等の支援を日常化する。	・部会や学年会等で、けがや感染症等の情報を共有化し、健康と安全を最優先した迅速な対処がとれるようにする。
	・業務の効率化	・教材作り、資料作り等の時間の効率化	・教材等の保管を計画的に進め、学校の財産として活用できるようにする。	・教材等について、内容、対象学年・グループ、保管場所等の一覧表を作成し、活用しやすい状況を作る。
中学部	・キャリア教育の推進	・意欲を引き出す授業作り	・自己肯定を高める授業作りを推進する。	・小学部での教育実践を踏まえ、さらに「分かった」「できた」の経験を積み重ねることで自己肯定感を高める。
	・安全指導	・自らの危険を回避する力の育成	・日常生活の中で起こりうる危険について、具体的な場면을提示し、意識の向上を図る	・生徒自身が危険に気付き、自ら回避できる力を育成するとともに、校内の環境整備に努める。
	・行事の精選	・行事についての検討	・学校として取り組むべき行事についての検討を行う。	・通常の授業を学習の中心と捉え、より効果的な行事計画の作成を行う。
高等部	・実践力の育成	・社会生活につながる授業の工夫	・それぞれの教育課程に応じた授業内容、支援方法等について検証する。	・「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を有効に活用し、授業にフィードバックできるようにする。
	・安全指導	・けがや事故、感染症等の未然防止と対処	・事故や感染症に関する情報の共有化と、未然防止のための指導や環境整備に努める。	・生徒自身が校内外での危険や健康管理を意識し、自ら回避できる力や予防しようとする力を育成する。
	・業務整理	・業務分担と効率化の推進	・計画的な業務の遂行、効率化を考えた処理方法について検討する。	・部全体のバランスを考えた、業務分担を行う。
総務	・運用及び管理	・備品及び消耗品等の整備・管理	・適切かつ運用しやすい物品の管理方法について検討する。	・管理及び運用の仕方について、全職員への周知徹底を図れるようにする。
教務	・学習指導	・教育課程の検討	・12年間の系統性を意識した教育課程の検討を進める。	・学校の特色、各部及び教育形態ごとの特色を大切にしながらの系統性を明確にする。
教育情報	・情報発信	・ホームページの開設に向けた計画の作成	・ホームページ開設に向け、掲載する内容の検討及び運用に仕方について計画を作成する。	・児童生徒の個人情報保護に留意し、学校の情報発信手段として、より有効な内容の精選を行う。
研修	・校内研修	・校内研修計画の作成	・必要性の高い内容を踏まえた研修計画を作成し、教員の指導力及び専門性の向上を図る。	・他の校務分掌と連携をとり、校内研修や現職研修の内容を設定する。
生活指導	・いじめへの予防と対処	・校内体制の整備	・児童生徒及び職員に対するいじめ防止についての意識の向上を図るとともに、校内の支援体制を整備する。	・発達段階に応じた、より適切な支援内容及び方法を用い、全職員がいじめに対して共通理解をもって、予防・対処できるようにする。
進路指導	・キャリア教育	・キャリア教育計画の作成	・本校のキャリア教育計画を作成し、教育への周知を図る。	・本校の進路指導の指針となるキャリア教育計画を各部の発達段階、実態を踏まえた上で作成し、他の校務と連携し、職員への意識付けを行う。
保健体育	・学校保健	・校内体制の整備	・服薬の扱いや救急時の対応等について、本校におけるマニュアルを作成し、職員への周知を図る。	・関係法規、関係者の意見を踏まえ、本校としての指針となるマニュアルを作成する。
相談支援	・相談支援	・「よつば相談」の開設	・地域の障害のあるお子さんや関係者を対象とした「よつば相談」の開設に向けた計画を作成する。	・本校が取り組むセンター的機能の一つとして、地域の関係機関との連携を密にして進めていく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・各部、各校務分掌が学校運営の中心となり、児童生徒の発達段階及び障害特性に応じたきめ細やかな教育を行うことができているか。		